



フサカサゴ科フサカサゴ亜科魚類 9 種の国内における追加記録

松本達也¹・甲斐嘉晃²・星野和夫³・藤原恭司⁴・本村浩之¹

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）

TM: k8476135@kadai.jp (corresponding author)

HM: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

² 京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所（舞鶴市）

kai.yoshiaki.4c@kyoto-u.ac.jp

³ 大分マリンパレス水族館「うみたまご」（大分市）

k-hoshino@umitamago.jp

⁴ 京都大学総合博物館

kyojifujiwara627@yahoo.co.jp

Received 10 September 2026

Revised 17 September 2026

Accepted 18 September 2026

Published 19 September 2026

DOI 10.34583/ichthy.71.0_19

Tatsuya Matsumoto, Yoshiaki Kai, Kazuo Hoshino, Kyoji Fujiwara and Hiroyuki Motomura. 2026. New distribution records of nine species of the subfamily Scorpaeninae (Scorpaenidae) in Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 71: 19–28.

Abstract

Examination of scorpionfish specimens (Scorpaenidae: Scorpaeninae) deposited at fish collections in Japan showed seven species were confirmed to occur regions or areas where they had not previously been recorded. The new records reported in this study were as follows: *Neomerinthe megalepis* (Fowler, 1938), from Miyazaki Pref.; *Scorpaena brevispina* Motomura and Senou, 2008, from the East China Sea; *Scorpaenopsis macrochir* Ogilby, 1910 from Oita Pref.; *Scorpaenopsis possi* Randall and Eschmeyer, 2002, from the Tokara Islands; *Sebastapistes cyanostigma* (Bleeker, 1856), from Aoga-shima island (Izu Islands) and the Tokara Islands; *Sebastapistes mauritiana* (Cuvier, 1829), from the Tokara Islands, Yoron-jima island (Amami Islands), and Iriomote-jima island; and *Sebastapistes strongia* (Cuvier, 1829), from southern Kyushu (Miyazaki and Kagoshima prefectures), the Tokara Islands, Zamami-jima island (Kerama Islands), and Iriomote-jima island. In addition, *Scorpaena onaria* Jordan and Snyder, 1900, was first recorded based on specimen from the Ogasawara Islands in this study. Furthermore, this study corrects errors in the locality data for the paratype of *Scorpaenopsis gigas* Matsumoto and Motomura, 2025 as shown in its original description and newly records this species from Kochi Prefecture.

フサカサゴ科フサカサゴ亜科魚類 (Scorpaenidae: Scorpaeninae) は、三大洋の熱帯・温帯域を中心に広く分布し (Poss

and Motomura, 2022), 日本国内からはこれまでに 17 属 60 種が知られている (本村, 2026).

フサカサゴ亜科魚類の分類学的研究の課程において、各研究機関に保管されている標本を再検討したところ、4 属 7 種において国内における分布の新知見となる証拠標本が確認された。さらに、フサカサゴ *Scorpaena onaria* Jordan and Snyder, 1900 については小笠原諸島が分布に含まれていたものの (吉野・瀬能, 2008), これまでに根拠となる写真や標本等の証拠が示されていなかったが、本研究により父島近海産の本種の標本が確認された。これらの標本の基本的な計数・計測値と種同定の根拠となる形態的特徴をあわせてここに報告する。また、先行研究により報告されたダイオウカサゴ *Scorpaenopsis gigas* Matsumoto and Motomura, 2025 のパラタイプの産地に誤記が認められたため、本報告においてそれを訂正する。

材料と方法

計数・計測方法は、Motomura (2004a, b), Motomura et al. (2005, 2006, 2012), および Motomura and Johnson (2006) にしたがった。クレナイフサカサゴ *Scorpaena brevispina* Motomura and Senou, 2008 については、Motomura and Senou (2008) にしたがって後頭窩高 (occipital pit length) と後頭窩幅 (occipital pit width) を追加で計測した。頭部の棘の名称は尼岡 (1984), 本村ほか (2004), および本田ほか (2023) にしたがった。Wibowo and Motomura (2021) にて示された postorbital spine については、新たに眼窩後棘とした。体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行い、計測値は体長に対する百分率で示した。計数・計測結果は計数・計測欄に示したが、標本の欠損により観察できなかった部位については表記を省略した。また、BSKU 116177 (ダイオウカサゴ *Scorpaenopsis gigas*, パラタイプ, 高知県産) の計数・計測値については、Matsumoto and Motomura (2025a) のデータに含まれているため表記を省略した。マルスベカサゴ *Scorpaenopsis macrochir* Ogilby, 1910 については先行研究 (Randall and Eschmeyer, 2002; 本村ほか, 2004) に

において、頭部の各計測値が頭長比で示されているため、本研究においてもそれらの計測値を体長比とは別に頭長比で示した。口裂の角度は、標本の側面より撮影した写真に基づき、ImageJ ver.1.53k (Schneider et al., 2012) を使用して求めた。鹿児島大学総合研究博物館に所蔵されている標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠しており、2000 年から 2001 年に採集されたマルスベカサゴの 2 標本 (KAUM-I. 225426 と KAUM-I. 225427) も同様の方法で作製された。標準体長 (standard length) は体長または SL と表記した。本研究で用いた研究機関略号は BSKU (高知大学理工学部海洋生物学研究室), CMNH (千葉県立中央博物館), FAKU (京都大学総合博物館・舞鶴水産実験所), KAUM (鹿児島大学総合研究博物館), NSMT (国立科学博物館) である。

Neomerinthe megalepis (Fowler, 1938)

オボロマツバラカサゴ

(Fig. 1A)

標本 KAUM-I. 409088, 体長 80.7 mm, 宮崎県延岡市鯛名町, 1981 年 2 月 6 日。

分布 オボロマツバラカサゴはインド東岸から日本、オーストラリア北部にかけての東インド洋・西太平洋に広く分布する (Matsumoto and Motomura, 2023)。国内からはこれまで高知県 (土佐湾) のみから記録されていた (Matsumoto and Motomura, 2023)。本研究により、宮崎県から新たに本種が記録された。

計数・計測 背鰭鰭条 XII, 9; 臀鰭鰭条 III, 5; 胸鰭鰭条 19; 腹鰭鰭条 I, 5; 側線下方鱗数 9; 鰓耙数 (上枝 + 下枝) 16 (5 + 11)。体各部計測値の体長に対する割合 (%) : 体高 34.7; 体幅 22.3; 頭長 46.6; 吻長 10.5; 眼径 13.1; 瞳孔中央における両眼間隔幅 4.0; 眼前棘基部における両眼間隔幅 4.7; 頭幅 15.0; 上顎長 21.6; 主上顎骨幅 6.8; 主鰓蓋骨上方棘・下方棘先端間の距離 9.4; 後頭長 26.5; 背鰭前長 40.0; 臀鰭前長 70.9; 腹鰭前長 35.6; 背鰭第 1 棘長 6.6; 背鰭第 2 棘長 10.3; 背鰭第 3 棘長 16.6; 背鰭第 4 棘長 16.6; 背鰭第 5 棘長 16.5; 背鰭第 11 棘長 5.7; 背鰭第 12 棘長 19.2; 最長背鰭軟条長 20.3; 臀鰭第 1 棘長 6.2; 臀鰭第 2 棘長 16.7; 臀鰭第 3 棘長 13.1; 最長臀鰭軟条長 19.7; 胸鰭長 29.1; 腹鰭棘長 14.4; 最長腹鰭軟条長 23.8; 尾鰭長 27.1; 尾柄長 19.8; 尾柄高 11.2。

同定 本研究の標本は背鰭棘数が 12 であること、口蓋骨歯があること、後頭窩がないこと、胸鰭の第 3–8 軟条が分枝すること、涙骨下縁前方棘が 2 本でいずれも後下方から下方を向くこと、および側線有孔鱗が鰓孔上端付近から尾柄基部まで連なることが Motomura et al. (2015) の示したマツバラカサゴ属 *Neomerinthe* Fowler, 1935 の特徴と一

致したため、本属に同定された。さらに、本標本は胸鰭条数が 19 であること、背鰭軟条数が 9 であること、側線下方鱗数が 9 であること、上枝鰓耙数が 5、下枝鰓耙数が 12 であること、主上顎骨表面に明瞭な隆起線がないこと、眼下骨棘数が 3 であること、前鰓蓋骨第 2 棘がないこと、第 4 鰓弓の後ろに裂孔がないこと、背鰭軟条部の後縁が円みを帯びること、体高、背鰭第 11 棘長、尾柄長、尾柄高がそれぞれ体長の 34.7%, 5.7%, 19.8%, 11.2% であること、および胸鰭の鰭膜が暗褐色を呈することなどの特徴が、Matsumoto and Motomura (2023) によって再記載されたオボロマツバラカサゴ *Neomerinthe megalepis* の標徴と一致したため、本種に同定された。

Scorpaena brevispina Motomura and Senou, 2008

クレナイフサカサゴ

(Fig. 1B)

標本 FAKU 75244, 体長 82.9 mm, 東シナ海 尖閣諸島北西沖 (26°13'31"N, 123°04'45"E), 水深 122 m, 海邦丸 (西海区水産実験所), 1997 年 1 月 29 日。

分布 クレナイフサカサゴはこれまで神奈川県三浦半島西方や静岡県伊豆半島東方を含む相模灘のみから記録されていた (Motomura and Senou, 2008; Matsumoto and Motomura, 2025b)。本研究により、東シナ海から新たに本種が記録された。

計数・計測 背鰭鰭条 XII, 9; 臀鰭鰭条 III, 5; 胸鰭鰭条 17; 腹鰭鰭条 I, 5; 鰓耙数 (上枝 + 下枝) 17 (5 + 12)。体各部計測値の体長に対する割合 (%) : 体高 38.0; 体幅 19.9; 頭長 47.9; 吻長 12.5; 眼径 14.1; 瞳孔中央における両眼間隔幅 6.6; 眼前棘基部における両眼間隔幅 6.0; 頭幅 16.3; 上顎長 22.8; 主上顎骨幅 7.2; 主鰓蓋骨上方棘・下方棘先端間の距離 8.1; 後頭長 24.7; 後頭窩長 4.2; 後頭窩幅 6.6; 背鰭前長 37.9; 臀鰭前長 70.0; 腹鰭前長 41.0; 背鰭第 1 棘長 8.7; 背鰭第 2 棘長 12.1; 背鰭第 3 棘長 15.9; 背鰭第 4 棘長 17.5; 背鰭第 5 棘長 17.4; 背鰭第 11 棘長 7.8; 背鰭第 12 棘長 15.2; 最長背鰭軟条長 20.3; 臀鰭第 1 棘長 8.0; 臀鰭第 2 棘長 18.5; 臀鰭第 3 棘長 13.6; 最長臀鰭軟条長 23.2; 胸鰭長 31.8; 腹鰭棘長 16.6; 最長腹鰭軟条長 26.5; 尾鰭長 30.2; 尾柄長 16.8; 尾柄高 9.9。

同定 本標本は背鰭棘数が 12 であること、口蓋骨歯があること、後頭窩があること、胸鰭の第 2–7 軟条が分枝すること、側線有孔鱗が鰓孔の上端付近から尾鰭基部まで続くこと、および眼下骨棘数が 3 であることが Wibowo and Motomura (2021) の示したフサカサゴ属 *Scorpaena* Linnaeus, 1758 の特徴と一致したため、本属に同定された。さらに、本標本は胸鰭条数が 17 であること、総鰓耙数が 17 であること、体腹面の前方部と胸鰭基部が露出した鱗に覆われる

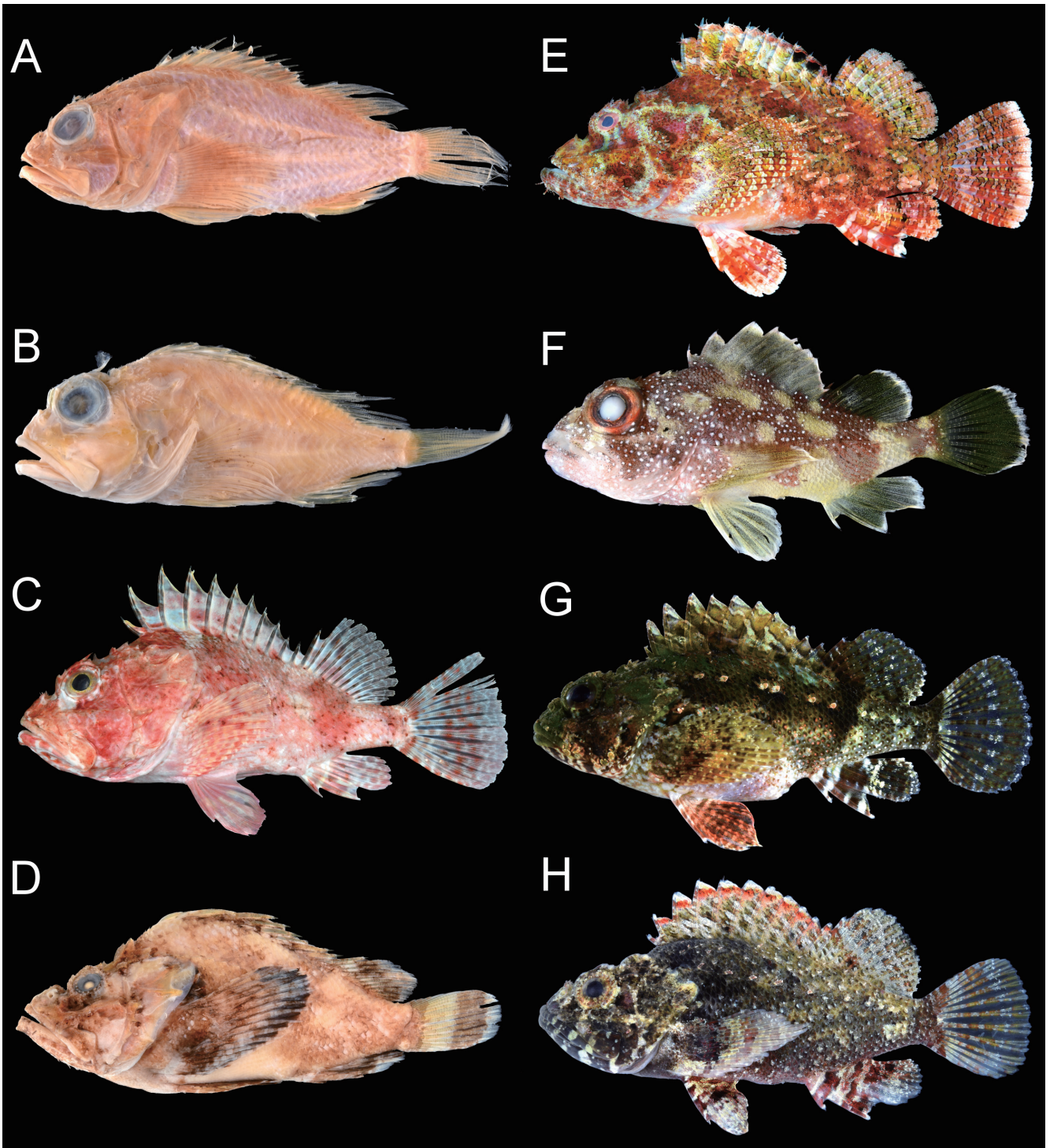


Fig. 1. Photographs of eight species of subfamily Scorpaeninae (Scorpaenidae) from Japan. A: *Neomerinthe megalepis*, KAUM-I. 409088, 80.7 mm SL, Miyazaki Pref.; B: *Scorpaena brevispina*, FAKU 75244, 82.9 mm SL, East China Sea; C: *Scorpaena onaria*, KAUM-I. 197887, 196.7 mm SL, Ogasawara Islands; D: *Scorpaenopsis macrochir*, KAUM-I. 225427, 99.5 mm SL, Oita Pref.; E: *Scorpaenopsis possi*, KAUM-I. 87468, 158.1 mm SL, Tokara Islands; F: *Sebastapistes cyanostigma*, KAUM-I. 191929, 21.0 mm SL, Izu Islands; G: *Sebastapistes mauritiana*, KAUM-I. 214869, 43.1 mm SL, Amami Islands; H: *Sebastapistes strongia*, KAUM-I. 221298, 37.7 mm SL, Miyazaki Pref. A, B, D: preserved specimens; C, D, F–H: fresh specimens.

こと、下顎先端付近と胸鰭腋部に皮弁がないこと、涙骨下縁前方棘が2本でいずれも前方を向くこと、涙骨下縁後方棘が1本で下方を向くこと、前背向涙骨棘と額棘がないこと、主上顎骨の表面に隆起線がないこと、眼隔域中央隆起がないこと、後頭窩が深く、前後方向の長さよりも幅の方が大きいこと、体高が体長の38.0%であること、背鰭第

1–3棘長がそれぞれ体長の15.9%、17.5%、17.4%であることなどの特徴が、Matsumoto and Motomura (2025b) が再記載したクレナイフサカサゴ *Scorpaena brevispina* の標徴と一致したため、本種に同定された。

なお、Matsumoto and Motomura (2025b) は本種の標徴として「lateral lacrimal spine present (涙骨側棘をもつ)」と

したが、これは「涙骨側棘をもたない」の誤りであり、Matsumoto and Motomura (2025b) の fig. 3 や Remarks では、本種が涙骨側棘をもたないことが示されている。本研究の標本は頭部の左右両側共に涙骨側棘を欠いており、この点も Matsumoto and Motomura (2025b) の Remarks などに示されている *Scorpaena brevispina* の特徴と一致した。

***Scorpaena onaria* Jordan and Snyder, 1900**

フサカサゴ

(Fig. 1C)

標本 KAUM-I. 197887, 体長 196.7 mm, 東京都小笠原村 父島近海, 水深 300 m, 釣り, 2024 年 4 月。

分布 フサカサゴはアンダマン海からハワイにかけての東インド洋と太平洋に広く分布する (Wibowo and Motomura, 2021)。国内において本種は、北海道以南の日本海岸, 東シナ海岸, および福島県以南の太平洋岸 (伊豆諸島, 瀬戸内海, 有明海を含む) から, 琉球列島, 沖縄舟上海盆にかけて記録されている (中坊・甲斐, 2013; 本村, 2022; Matsunuma et al., 2025)。吉野・瀬能 (2008) は本種の分布域に小笠原諸島を含めたが, その根拠となる標本や写真の情報は示されていない。本研究により, 小笠原諸島父島近海における本種の分布が標本に基づき確認された。

計数・計測 背鰭鰭条 XII, 9; 臀鰭鰭条 III, 5; 胸鰭条数 17; 腹鰭鰭条 I, 5; 側線上方鱗横列数 47; 側線開孔鱗数 23; 側線上方鱗数 6; 側線下方鱗数 14; 背鰭第 6 棘から側線の間の鱗列数 9; 背鰭第 12 棘から側線の間の鱗列数 9; 背鰭前方鱗列数 5; 鰓耙数 (上枝 + 下枝) 16 (5 + 11)。体各部計測値の体長に対する割合 (%) : 体高 40.2; 体幅 22.4; 頭長 47.9; 吻長 25.9; 眼径 11.9; 瞳孔中央における両眼間隔幅 7.1; 眼前棘基部における両眼間隔幅 6.1; 頭幅 14.6; 上顎長 22.2; 主上顎骨幅 7.4; 主鰓蓋骨上方棘・下方棘先端間の距離 8.7; 後頭長 24.9; 背鰭前長 38.2; 臀鰭前長 73.6; 腹鰭前長 44.5; 背鰭第 1 棘長 8.7; 背鰭第 2 棘長 14.6; 背鰭第 3 棘長 18.5; 背鰭第 4 棘長 18.4; 背鰭第 5 棘長 17.7; 背鰭第 11 棘 7.4; 背鰭第 12 棘長 13.3; 最長背鰭軟条長 19.5; 臀鰭第 1 棘長 8.5; 臀鰭第 2 棘長 17.4; 臀鰭第 3 棘長 15.0; 最長臀鰭軟条長 21.7; 胸鰭長 28.6; 腹鰭棘長 15.6; 最長腹鰭軟条長 25.8; 尾鰭長 29.6; 尾柄長 17.5; 尾柄高 10.9。

同定 本研究の標本は前述の特徴 (クレナイフサカサゴの同定を参照) が, Wibowo and Motomura (2021) の示したフサカサゴ属 *Scorpaena* の特徴と一致したため, 本属に同定された (胸鰭は第 2–8 軟条が分枝)。さらに, 本標本は背鰭軟条数と胸鰭軟条数がそれぞれ 9, 17 であること, 側線上方鱗横列数, 側線開孔鱗数, 側線上方鱗列数, 側線下

方鱗列数, 背鰭第 12 棘と側線の間の鱗列数, および背鰭前方鱗列数が, それぞれ 47, 23, 6, 14, 9, 5 であること, 総鰓耙数が 16 であること, 体腹面の前方部と胸鰭の基部が皮下に埋没した鱗で覆われること, 下顎腹面と腋部に皮弁がないこと, 前涙骨棘基部に 1 補棘があること, 後涙骨棘に補棘がないこと, 涙骨側棘が単尖頭であること, 前背向涙骨棘, 額棘, 眼窩後棘がないこと, 上顎骨側面に隆起線がないこと, 主上顎骨の後端が眼窩の後縁直下に位置すること, 側線が胸鰭基部直上付近から大きく下方へ傾斜すること, 体高が体長の 40.2% であること, および体側と背鰭には小黒色斑をもつが頭部にはそれをもたないことなどの特徴が, Wibowo and Motomura (2021) が示したフサカサゴ *Scorpaena onaria* の特徴と一致したため, 本種に同定された。なお, 本標本の背鰭第 6 棘と側線の間の鱗列数は 9 と, Wibowo and Motomura (2021) が示した値 (7 か 8) よりも多かったが, その差異はわずかであることから, 本研究ではこれを本種の種内変異の範囲内とみなした。

***Scorpaenopsis gigas* Matsumoto and Motomura, 2025**

ダイオウカサゴ

標本 BSKU 116177, パラタイプ, 体長 205.7 mm, 高知県幡多郡黒潮町佐賀漁港, 刺網, 2014 年 9 月 26 日。

分布 ダイオウカサゴはアンダマン海, 日本, および台湾から標本が得られている (Matsumoto and Motomura, 2025a)。国内において本種は, 伊豆半島, 長崎県, 甌島列島, 鹿児島湾, 内之浦湾, および大隅諸島・硫黄島から記録されている (Matsumoto and Motomura, 2025a)。本研究により, 土佐湾における本種の記録も確認された。

備考 BSKU 116177 は Matsumoto and Motomura (2025a) において, ダイオウカサゴ *Scorpaenopsis gigas* のパラタイプに指定された。Matsumoto and Motomura (2025a) は本標本の産地を長崎県としたがこれは誤りであり, 実際には上記のとおり高知県から得られたものである。本研究において BSKU 116177 の産地情報を訂正し, 本種の高知県における分布を報告する。

***Scorpaenopsis macrochir* Ogilby, 1910**

マルスベカサゴ

(Fig. 1D)

標本 KAUM-I. 225426, 体長 124.0 mm, 大分県佐伯市蒲江丸市尾浦 名護屋湾 (32°46'54"N, 131°52'43"E), 定置網, 星野和夫, 2000 年 6 月 28 日; KAUM-I. 225427, 体長 99.5 mm, 大分県佐伯市蒲江大字西野浦 仙崎沖 (32°50'07"N, 132°02'03"E), 底曳網, 星野和夫, 2001 年 11 月 20 日。

分布 マルスベカサゴはモーリシャスから日本, マ

ルキーズ諸島にかけてのインド・太平洋に広く分布する (Randall and Eschmeyer, 2002; Poss and Motomura, 2022). 国内において本種は、小笠原諸島父島、薩摩半島西岸、大隅諸島・屋久島、および琉球列島 (奄美大島、加計呂麻島、喜界島、徳之島、沖永良部島、沖縄島、渡嘉敷島) から記録されていた (Randall and Eschmeyer, 2002; 本村ほか, 2004, 2019; 中坊・甲斐, 2013; Motomura, 2017; Motomura and Harazaki, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; 田中ほか, 2020; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; 萩原, 2022; 本村, 2022). 本研究により、大分県佐伯市から新たに本種が記録された. なお本研究の標本は、本種の分布の北限記録となる.

計数・計測 背鰭鰭条 XII, 9; 臀鰭鰭条 III, 5; 胸鰭条数 17; 腹鰭鰭条 I, 5; 側線上方鱗横列数 44; 側線開孔鱗数 21 か 22; 側線上方鱗数 7 か 8; 側線下方鱗数 12; 背鰭第 6 棘から側線の間の鱗列数 6 か 7; 背鰭第 12 棘から側線の間の鱗列数 6; 背鰭前方鱗列数 4 か 5; 鰓耙数 (上枝 + 下枝) 13–15 (4 か 5 + 9). 体各部計測値の体長に対する割合 (%) : 体高 42.1–42.2; 体幅 33.0–34.8; 頭長 43.5–46.4; 吻長 13.3–14.5; 眼径 8.5–8.8; 瞳孔中央における両眼間隔幅 11.5–12.8; 眼前棘基部における両眼間隔幅 10.6–10.7; 頭幅 18.0–19.0; 上顎長 23.1–24.2; 主上顎骨幅 6.8–7.7; 主鰓蓋骨上方棘・下方棘先端間の距離 10.1–10.2; 後頭長 24.1–25.3; 背鰭前長 38.7–49.5; 臀鰭前長 71.3–74.4; 腹鰭前長 41.6–43.7; 背鰭第 1 棘長 7.3–7.8; 背鰭第 2 棘長 10.8–12.8; 背鰭第 3 棘長 12.9–16.5; 背鰭第 4 棘長 15.3–17.2; 背鰭第 5 棘長 15.2–17.1; 背鰭第 11 棘長 9.3–12.2; 背鰭第 12 棘長 11.4–13.7; 最長背鰭軟条長 20.7 (KAUM-I. 225426 は損傷のため計測不可); 臀鰭第 1 棘長 8.0–8.2; 臀鰭第 2 棘長 17.0–18.2; 臀鰭第 3 棘長 13.5–15.5; 最長臀鰭軟条長 20.5–21.9; 胸鰭長 34.0–36.3; 腹鰭棘長 14.9–16.2; 最長腹鰭軟条長 26.5–28.6; 尾鰭長 26.9–27.7; 尾柄長 15.2–16.1; 尾柄高 11.1–11.8. 体各部計測値の頭長に対する割合 (%) : 吻長 30.5–31.3; 眼径 18.3–20.6; 瞳孔中央における両眼間隔幅 24.7–29.3; 眼前棘基部における両眼間隔幅 22.8–24.5.

同定 本標本は背鰭棘数が 12 であること、臀鰭が 3 棘 5 軟条であること、腹鰭が 1 棘 5 軟条であること、口蓋骨歯がないこと、眼下骨棘数が 4 であること、耳棘があること、不對鰭の軟条が分枝すること、胸鰭下部の軟条が不分枝であること、および側線が鰓孔上部から尾鰭基部まで連なることなどの特徴が、Randall and Eschmeyer (2002) や本村ほか (2004) が示したオニカサゴ属 *Scorpaenopsis* Heckel, 1837 の特徴に一致した. さらに、本標本は胸鰭条数、側線上方鱗横列数、総鰓耙数がそれぞれ 17, 44, 13 か 14 であること、主鰓蓋骨上方棘の先端が複尖頭であること、眼上棘、眼後棘、頸棘が鋸歯状を呈さないこと、眼隔域中

央隆起がないこと、背鰭基底前方で体背縁が著しく盛り上がること、吻長、眼径、瞳孔中央における両眼間隔幅、瞳孔中央における両眼間隔幅はそれぞれ頭長の 30.5–31.3%, 18.3–20.6%, 24.7–29.3%, 22.8–24.5% であること、口裂は体軸に対して 40–45 度の角度を成すこと、および胸鰭内側には外縁付近に 1 黒色帯があり、基底部付近に複数の小黒色斑があることなどの特徴が、Randall and Eschmeyer (2002) や本村ほか (2004) が示したマルスベカサゴ *Scorpaenopsis macrochir* の特徴とおおむね一致したため、本種に同定された.

KAUM-I. 225426 の眼径 (頭長が眼径の 5.48 倍) は、Randall and Eschmeyer (2002) が示した値 (4.85–5.4 倍) よりもやや小さかった. また、本村ほか (2004) は本種の鼻棘は 1–3 本で鋸歯状を呈さないとしており、中坊・甲斐 (2013) も鼻棘を含む頭部の各棘が鋸歯状を呈さないことを本種の標徴として示しているが、本研究の標本はいずれも鼻棘がやや鋸歯状を呈し、4–6 尖頭であった. しかし、眼径の計測値についてはその差異はわずかであり、また Randall and Eschmeyer (2002) は備考において、本種の鼻棘が 2–6 尖頭であることを示している. 以上から、本研究では上記の先行研究との差異を本種の種内変異の範囲内と判断した.

Scorpaenopsis possi Randall and Eschmeyer, 2002

ミミトゲオニカサゴ

(Fig. 1E)

標本 KAUM-I. 87468, 体長 158.1 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村平島南之浜港 (平島) (29°40'40"N, 129°31'56"E), 水深 8 m, 手網, 本村浩之・福井美乃・江口慶輔・Kunto Wibowo, 2016 年 4 月 23 日; KAUM-I. 114926, 体長 57.3 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村諏訪之瀬島切石港 (諏訪之瀬島) (29°36'34"N, 129°42'50"E), 水深 18 m, 手網, 田代郷国・森下悟至・新藤 蒼・田中美和, 2018 年 4 月 27 日; KAUM-I. 115936, 体長 153.5 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村諏訪之瀬島切石港 (諏訪之瀬島) (29°36'35"N, 129°42'45"E), 水深 3–10 m, 釣り, Byeol Jeong, 2018 年 4 月 26 日.

分布 ミミトゲオニカサゴは南西太平洋を除く、南アフリカからハワイ、フレンチポリネシアにかけてのインド・太平洋に広く分布する (Poss and Motomura, 2022). 国内において本種は、対馬、伊豆諸島 (八丈島、三宅島)、小笠原諸島、静岡県、高知県、日向灘、薩摩半島西岸、大隅諸島 (竹島、硫黄島、馬毛島、種子島、屋久島、口永良部島)、琉球列島 (奄美大島、加計呂麻島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島、沖縄島、伊江島、瀬底島、座間味島、渡嘉敷島、石垣島、西表島、与那国島)、および南大東島

から記録されていた (Randall and Eschmeyer, 2002; 吉郷, 2004; 渡井ほか, 2009; 中坊・甲斐, 2013; 本村, 2013, 2014, 2019, 2022; 佐々木ほか, 2014; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; 田中ほか, 2020; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; Jeong and Motomura, 2021; 津野ほか, 2022; 萩原, 2022; Motomura, 2023; 阿部ほか, 2024; Matsunuma et al. 2025). 本研究により, トカラ列島の諏訪之瀬島と平島から新たに本種が記録された.

計数・計測 背鰭鰭条 XII, 9; 臀鰭鰭条 III, 5; 胸鰭鰭条数 16 か 17; 腹鰭鰭条 I, 5; 側線上方鱗横列数 46–48; 側線開孔鱗数 23; 側線上方鱗数 8; 側線下方鱗数 13–15; 背鰭第 6 棘から側線の間の鱗列数 7 か 8; 背鰭第 12 棘から側線の間の鱗列数 7; 背鰭前方鱗列数 5 か 6; 鰓耙数 (上枝 + 下枝) 15 か 16 (5 か 6 + 9–11). 体各部計測値の体長に対する割合 (%): 体高 30.2–39.3; 体幅 22.2–27.6; 頭長 42.8–46.4; 吻長 13.1–14.9; 眼径 7.9–9.9; 瞳孔中央における両眼間隔幅 6.8–9.2; 眼前棘基部における両眼間隔幅 5.8–7.2; 頭幅 14.8–16.1; 上顎長 20.8–23.0; 主上顎骨幅 6.8–8.2; 主鰓蓋骨上方棘・下方棘先端間の距離 5.7–6.9; 後頭長 21.6–23.7; 背鰭前長 38.0–40.5; 臀鰭前長 73.6–76.9; 腹鰭前長 38.2–41.6; 背鰭第 1 棘長 5.8–6.8; 背鰭第 2 棘長 11.6–17.6; 背鰭第 3 棘長 15.2–19.7; 背鰭第 4 棘長 15.6–18.7; 背鰭第 5 棘長 14.9–17.5; 背鰭第 11 棘長 7.0–8.1; 背鰭第 12 棘長 13.2–14.2; 最長背鰭軟条長 19.0–19.8; 臀鰭第 1 棘長 8.8–10.9; 臀鰭第 2 棘長 21.4–25.1; 臀鰭第 3 棘長 16.2–20.2; 最長臀鰭軟条長 24.1–25.5; 胸鰭長 29.8–34.3; 腹鰭棘長 14.0–18.0; 最長腹鰭軟条長 26.4–29.3; 尾鰭長 27.7–29.1; 尾柄長 14.4–18.0; 尾柄高 11.5–13.4.

同定 本標本は前述の特徴 (マルスカサゴの同定を参照) が, Randall and Eschmeyer (2002) や本村ほか (2004) が示したオニカサゴ属 *Scorpaenopsis* の特徴に一致した. さらに, 本標本は胸鰭鰭条数と側線上方鱗横列数がそれぞれ 17 (KAUM-I. 87468 は 16) と 46–48 であること, 涙骨隆起の先端が皮下に埋没すること, 体側からみて眼の上方約 2 分の 1 が頭部輪郭から突出すること, 頭部の各棘が鋸歯状を呈さないこと, 眼隔域中央隆起が発達すること, 主鰓蓋骨上方棘の先端が単尖頭であること, 眼後棘基部付近に余棘があること, 後頭窩が比較的浅く, その前縁の隆起は背面からみて後方へ湾曲すること, 主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間が無鱗であること, 胸鰭内側に顕著な色彩的特徴がないこと, および体側に小黒色斑がないことなどの特徴が, Randall and Eschmeyer (2002) や本村ほか (2004) が示したミミトゲオニカサゴ *Scorpaenopsis possi* の特徴と一致したことから, 本種に同定された.

***Sebastapistes cyanostigma* (Bleeker, 1856)**

カスリフサカサゴ

(Fig. 1F)

標本 KAUM-I. 99125, 体長 30.8 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村悪石島やすら浜港 (悪石島) (29°27'13"N, 129°35'32"E), 水深 12–16 m, 手網, 福井美乃・Kunto Wibowo・藤原恭司・森下悟至, 2017 年 4 月 24 日; KAUM-I. 99137, 体長 49.1 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村悪石島やすら浜港 (悪石島) (29°27'16"N, 129°35'34"E), 水深 20–22 m, 手網, 本村浩之・福井美乃・Kunto Wibowo・藤原恭司・森下悟至, 2017 年 4 月 23 日; KAUM-I. 99150, 体長 44.6 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村悪石島やすら浜港 (悪石島) (29°27'16"N, 129°35'34"E), 水深 10–18 m, 手網, 福井美乃・Kunto Wibowo・藤原恭司・森下悟至, 2017 年 4 月 23 日; KAUM-I. 191617, 体長 48.6 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村小宝島湯泊温泉沖 (小宝島) (29°13'31"N, 129°19'55"E), 水深 10–25 m, 手網, 松岡 翠・佐藤智水, 2023 年 10 月 29 日; KAUM-I. 191617, 体長 46.5 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村小宝島小宝島港 (小宝島) (29°13'08"N, 129°19'19"E), 水深 10–20 m, 手網, 松岡 翠・佐藤智水, 2023 年 10 月 28 日; KAUM-I. 191929, 体長 21.0 mm, 東京都青ヶ島村 (青ヶ島), 吉田奈央, 2023 年 6 月 12 日; KAUM-I. 199987, 体長 33.4 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村宝島前籠港沖 (宝島) (29°09'32"N, 129°12'14"E), 水深 10–20 m, 手網, 松岡 翠・上野大輔・山田守彦, 2024 年 7 月 9 日.

分布 カスリフサカサゴは南アフリカから日本, ニュージーランドにかけてのインド・西太平洋に広く分布する (Poss and Motomura, 2022). 国内において本種は, 八丈島, 小笠原諸島, 静岡県, 和歌山県串本, 高知県柏島, 宮崎県, 大隅諸島 (屋久島, 口永良部島), 琉球列島 (奄美大島, 喜界島, 沖永良部島, 与論島, 伊江島, 瀬底島, 渡嘉敷島, 屋嘉比島, 宮古諸島, 西表島, 与那国島), および南大東島から記録されていた (島田, 1996; 石田, 1997; 吉郷・中村, 2002, 2003; 吉郷, 2004; Senou et al., 2006a, 2007; 中坊・甲斐, 2013; 本村, 2014; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; 田中ほか, 2020; 本田ほか, 2024; 中村ほか, 2024; 大西ほか, 2026). また, 益田ほか (1975) に掲載された本種の写真は, 沖縄島西方のルカン礁から得られた標本 (FAKU 121511, 体長 52.9 mm) に基づくことが, 京都大学に残されていた記録により明らかとなった. 本研究により, 伊豆諸島の青ヶ島, およびトカラ列島の悪石島, 小宝島, および宝島から新たに本種が記録された.

計数・計測 背鰭鰭条 XII, 9; 臀鰭鰭条 III, 5; 胸鰭条数 16; 腹鰭鰭条 I, 5; 側線上方鱗横列数 51–54; 側線開孔鱗数 24; 側線上方鱗数 9 か 10; 側線下方鱗数 11–13; 背鰭第 6 棘から側線の間の鱗列数 6 か 7; 背鰭第 12 棘から側線の間の鱗列数 6–8; 背鰭前方鱗列数 3 か 4; 鰓耙数 (上枝 + 下枝) 16–19 (5 か 6 + 11–13). 体各部計測値の体長に対する割合 (%): 体高 32.9–39.9; 体幅 18.6–25.5; 頭長 43.6–48.0; 吻長 12.7–14.6; 眼径 13.6–15.9; 瞳孔中央における両眼間隔幅 6.2–8.2; 眼前棘基部における両眼間隔幅 5.6–8.0; 頭幅 16.7–18.3; 上顎長 21.3–22.6; 主上顎骨幅 5.7–6.6; 主鰓蓋骨上方棘・下方棘先端間の距離 6.0–7.1; 後頭長 18.7–22.4; 背鰭前長 36.7–42.6; 臀鰭前長 70.9–74.0; 腹鰭前長 38.1–42.0; 背鰭第 1 棘長 6.3–9.6; 背鰭第 2 棘長 11.6–14.8; 背鰭第 3 棘長 16.7–19.8; 背鰭第 4 棘長 19.3–24.0; 背鰭第 5 棘長 18.6–22.4; 背鰭第 11 棘長 7.5–9.5; 背鰭第 12 棘長 13.0–15.5; 最長背鰭軟条長 18.3–21.3; 臀鰭第 1 棘長 10.8–14.5; 臀鰭第 2 棘長 17.1–27.8; 臀鰭第 3 棘長 16.7–21.5; 最長臀鰭軟条長 21.0–24.2; 胸鰭長 29.2–32.9; 腹鰭棘長 19.0–20.7; 最長腹鰭軟条長 25.1–27.6; 尾鰭長 25.5–27.6; 尾柄長 16.7–18.6; 尾柄高 8.6–10.1.

同定 本標本は背鰭棘数が 12 であること, 口蓋骨歯があること, 後涙骨棘が後下方を向くこと, 側線有孔鱗が鰓孔の上端付近から尾鰭基部まで続くこと, および深い後頭窩がないことなどの特徴が, Motomura et al. (2014) が示したマダラフサカサゴ属 *Sebastapistes* Gill, 1877 の特徴に一致した. さらに, 本標本は胸鰭条数が 16 であること, 眼下骨棘数が 1 であること, 涙骨下縁に前涙骨棘 (1 か 2 棘) と後涙骨棘 (1 棘) に加え, 側方を向く 1 棘があること, 額棘がないこと, および鰭膜上に褐色斑がないことなどの特徴が, Poss and Motomura (2022) が示したカスリフサカサゴ *Sebastapistes cyanostigma* の特徴と一致したため, 本種に同定された.

Sebastapistes mauritiana (Cuvier, 1829)

ハチジョウフサカサゴ

(Fig. 1G)

標本 BSKU 80618, 体長 42.2 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村中之島 (中之島), 1983 年 6 月; KAUM-I. 214869, 体長 43.1 mm, 鹿児島県大島郡与論町立長ハキビナ海岸 (与論島) (27°01'39"N, 128°25'16"E), 水深 0.2 m, 徒手, 松本達也, 2025 年 1 月 30 日; NSMT-P 66797, 体長 36.0 mm, 沖縄県八重山郡竹富町西表島耳切りの浜 (西表島), 鈴木寿之・細川正富, 1999 年 8 月 11 日.

分布 ハチジョウフサカサゴは南アフリカからハワイ, フレンチポリネシアにかけてのインド・太平洋に広く分布する (Poss and Motomura, 2022). 国内において本種は, 伊

豆大島, 八丈島, 琉球列島 (加計呂麻島, 徳之島, 沖永良部島, 伊江島), および南大東島から記録されていた (吉郷, 2004; 中坊・甲斐, 2013; Mochida and Motomura, 2018; 本村, 2019; Motomura and Uehara, 2020; 本田ほか, 2024; Matsunuma et al., 2025). 本研究により, トカラ列島の中之島, 与論島, および西表島からも新たに本種が記録された.

計数・計測 背鰭鰭条 XII, 9; 臀鰭鰭条 III, 5; 胸鰭条数 15 か 16; 腹鰭鰭条 I, 5; 側線上方鱗横列数 45; 側線開孔鱗数 23; 側線上方鱗数 6 か 7; 側線下方鱗数 10–12; 背鰭第 6 棘から側線の間の鱗列数 5 か 6; 背鰭第 12 棘から側線の間の鱗列数 6; 背鰭前方鱗列数 3; 鰓耙数 (上枝 + 下枝) 14–16 (4 か 5 + 10 か 11). 体各部計測値の体長に対する割合 (%): 体高 31.3–35.7; 体幅 20.9–25.5; 頭長 39.1–41.4; 吻長 10.8–11.1; 眼径 11.1–11.9; 瞳孔中央における両眼間隔幅 5.6–6.4; 眼前棘基部における両眼間隔幅 4.6–6.2; 頭幅 14.7–16.5; 上顎長 19.7–20.6; 主上顎骨幅 5.2–5.6; 主鰓蓋骨上方棘・下方棘先端間の距離 6.1–7.1; 後頭長 20.6–21.1; 背鰭前長 34.3–35.8; 臀鰭前長 69.2–70.4; 腹鰭前長 36.4–38.4; 背鰭第 1 棘長 3.9–6.9; 背鰭第 2 棘長 10.0–11.8; 背鰭第 3 棘長 13.7–16.1; 背鰭第 4 棘長 15.8–18.0; 背鰭第 5 棘長 15.8–18.0; 背鰭第 11 棘長 8.1–8.9; 背鰭第 12 棘長 12.8–14.0; 最長背鰭軟条長 19.4–20.6; 臀鰭第 1 棘長 8.3–10.0; 臀鰭第 2 棘長 20.0–22.7; 臀鰭第 3 棘長 16.4–19.0; 最長臀鰭軟条長 21.4–23.7; 胸鰭長 31.9–34.4; 腹鰭棘長 17.4–18.5; 最長腹鰭軟条長 25.8–28.9; 尾鰭長 25.3–27.4; 尾柄長 16.9–18.7; 尾柄高 10.4–11.7.

同定 本標本は後頭窩の有無を除く前述の特徴 (カスリフサカサゴの同定を参照) が Motomura et al. (2014) の示したマダラフサカサゴ属 *Sebastapistes* の特徴に一致した. さらに, 本標本は胸鰭条数が 15 か 16 であること, 眼下骨棘数が 1 であること, 後頭窩が浅いこと, および額棘があることなどの特徴が, Poss and Motomura (2022) が示したハチジョウフサカサゴ *Sebastapistes mauritiana* の特徴と一致したため, 本種に同定された.

Sebastapistes strongia (Cuvier, 1829)

マダラフサカサゴ

(Fig. 1H)

標本 CMNH-ZF 14502, 体長 47.7 mm, 沖縄県島尻郡座間味村古座間味ビーチ南 (座間味島) (26°13'18"N, 127°18'30"E), 手網, 池田祐二・藍澤正弘, 2006 年 3 月 10 日; FAKU 63649, 体長 41.9 mm, 沖縄県八重山郡竹富町バラス島 (西表島北方), 鈴木寿之, 1993 年 8 月 1 日; FAKU 63653, 体長 35.3 mm, 沖縄県八重山郡竹富町南風見由の浜 (西表島), 鈴木寿之, 1994 年 12 月 27 日; KAUM-I. 189501, 体長 26.3 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村諏訪之

瀬島元浦港（諏訪之瀬島）(29°36'34"N, 129°41'48"E), 水深 3–7 m, 手網, 松岡 翠・出羽優風・佐藤智水, 2023 年 9 月 9 日; KAUM-I. 199966, 体長 33.4 mm, KAUM-I. 199967, 体長 29.1 mm, 鹿児島県鹿児島郡十島村宝島大籠海水浴場（宝島）(29°09'29"N, 129°12'58"E), 水深 0.5 m, 手網, 橋本慎太郎・有馬雄太, 2024 年 7 月 10 日; KAUM-I. 221298, 体長 37.7 mm, 宮崎県串間市都井黒井漁港 (31°23'12"N, 131°17'45"E), 水深 0.2 m, 手網, 前田知範, 2025 年 10 月 25 日; KAUM-I. 222069, 体長 39.4 mm, 鹿児島県南九州市姶良町別府番所鼻自然公園地先 (31°14'46"N, 130°26'04"E), 水深 0.3 m, 手網, 久木田直斗, 2025 年 12 月 6 日.

分布 マダラフサカサゴは南アフリカからクック諸島にかけてのインド・西太平洋と南太平洋に広く分布する (Poss and Motomura, 2022). 国内において本種は, 千葉県館山市, 伊豆大島, 八丈島, 高知県柏島, 大隅諸島 (竹島, 硫黄島, 黒島, 種子島, 屋久島, 口永良部島), および琉球列島 (奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島, 沖縄島, 渡嘉敷島, 宮古諸島, 石垣島, 与那国島) から記録されていた (Senou et al., 2006b; 渡井ほか, 2009; 中坊・甲斐, 2013; 本村, 2013, 2014, 2019; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; Jeong and Motomura, 2021; 萩原, 2022; Motomura, 2023; Matsunuma et al., 2025). 本研究により, 宮崎県, 鹿児島県薩摩半島南岸, トカラ列島の諏訪之瀬島と宝島, 慶良間諸島の座間味島, および西表島からも新たに本種が記録された.

石田 (1997) は, 伊豆半島沿岸にて撮影されたフサカサゴ科魚類の個体をマダラフサカサゴとして示した. しかし, この個体は鰓蓋膜上に黒色斑をもつことが, アカマダラフサカサゴ *Sebastapistes perplexa* Motomura, Aizawa and Endo, 2014 の標徴と一致する (Motomura et al., 2014). そのため本研究では, 石田 (1997) が示した水中写真の個体をアカマダラフサカサゴへと再同定し, マダラフサカサゴの分布記録からは除いた.

計数・計測 背鰭鰭条 XII, 9 か 10; 臀鰭鰭条 III, 5; 胸鰭鰭条 15; 腹鰭鰭条 I, 5; 側線上方鱗横列数 41–43; 側線開孔鱗数 20–22; 側線上方鱗数 5 か 6; 側線下方鱗数 9–11; 背鰭第 6 棘から側線の間の鱗列数 4–6; 背鰭第 12 棘から側線の間の鱗列数 4–6; 背鰭前方鱗列数 3 か 4; 鰓耙数 (上枝 + 下枝) 13–17 (4 か 5 + 8–12). 体各部計測値の体長に対する割合 (%) : 体高 31.2–39.0; 体幅 16.3–23.1; 頭長 43.4–46.3; 吻長 10.3–13.0; 眼径 11.2–13.5; 瞳孔中央における両眼間隔幅 5.7–7.1; 眼前棘基部における両眼間隔幅 4.8–6.3; 頭幅 14.7–17.2; 上顎長 21.7–24.9; 主上顎骨幅 6.5–8.2; 主鰓蓋骨上方棘・下方棘先端間の距離

2.3–7.4; 後頭長 20.9–23.4; 背鰭前長 33.7–39.9; 臀鰭前長 68.0–71.9; 腹鰭前長 37.8–40.0; 背鰭第 1 棘長 5.8–9.4; 背鰭第 2 棘長 9.5–13.6; 背鰭第 3 棘長 12.5–18.2; 背鰭第 4 棘長 15.5–19.7; 背鰭第 5 棘長 15.6–19.7; 背鰭第 11 棘長 9.1–11.5; 背鰭第 12 棘長 13.6–17.0; 最長背鰭軟条長 16.3–19.3; 臀鰭第 1 棘長 8.4–9.7; 臀鰭第 2 棘長 19.3–22.9; 臀鰭第 3 棘長 15.8–20.1; 最長臀鰭軟条長 20.2–24.7; 胸鰭長 23.6–37.1; 腹鰭棘長 16.0–18.2; 最長腹鰭軟条長 22.4–27.0; 尾鰭長 25.5–29.2; 尾柄長 16.4–19.5; 尾柄高 9.5–11.9.

同定 本研究の標本は前述の特徴 (カスリフサカサゴの同定を参照) が Motomura et al. (2014) の示したマダラフサカサゴ属 *Sebastapistes* の特徴に一致した. さらに, 本種は胸鰭条数, 側線上方鱗横列数, および総鰓耙数がそれぞれ 15, 41–43, 13–17 であること, 主鰓蓋骨下方棘に中央隆起線があること, 耳棘基底の後端が翼耳棘基底の前端より後方に位置すること, 涙骨下縁に 2 棘あること, および額棘がないことなどの特徴が, 本村 (2014) や Poss and Motomura (2022) が示したマダラフサカサゴ *Sebastapistes strongia* と一致したため, 本種に同定された.

備考 本研究において調査した 8 標本には, 眼下骨棘数の異なる形態的二型が認められ, FAKU 63649, FAKU 63653, KAUM-I. 221298, KAUM-I. 222069 の眼下骨棘数は 2 である一方, CMNH 14502, KAUM-I. 189501, KAUM-I. 199966, KAUM-I. 199967 は 3 であった. Chou et al. (2024) は眼下骨棘数とミトコンドリア DNA の一部領域に基づく分子遺伝学的解析の結果に基づき, 本種に類似する隠蔽種の存在を示唆した. 本種については今後詳細な分類学的再検討を行う必要があると考えられるが, 本研究では暫定的に上記の形態的二型を種内変異とみなした.

謝 辞

東京都小笠原村の齊藤恵一氏 (遊漁船「恵丸」船長), 鹿児島市の久木田直斗氏, 京都大学農学部地域環境工学科 (当時) の吉田奈央氏, および鹿児島大学総合研究博物館の学生・OB 諸氏には, 標本の採集・作製・登録などにご協力いただいた. 高知大学理工学部海洋生物学研究室の遠藤広光氏, 千葉県立中央博物館分館海の博物館の乃一哲久氏, および国立科学博物館の中江雅典氏には標本の借用に際しご協力いただいた. 京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所の松沼瑞樹氏と小幡光汰氏には, 標本調査へご協力いただいた. Ichthy 編集委員の中村潤平氏と匿名の査読者には, 原稿に対し有益なご助言をいただいた. 以上の方々へ謹んで感謝の意を表する. 本研究の一部は鹿児島大学博士研究員支援プログラム (KU-DREAM), 公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」, JSPS 科研費 (20H03311・21H03651・23K20304・24K02087), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・

アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009), 文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた。

引用文献

- 阿部健志郎・清和凌河・坂井陽一・古橋龍星・本村浩之. 2024. 口永良部島から得られた南限更新記録 2 種を含む魚類 57 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 1–14.
- 尼岡邦夫. 1984. フサカサゴ科, p. 296. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑 (解説). 東海大学出版会, 東京.
- Chou, T.-K., W.-C. Huang, W.-C. Jhuang and T.-Y. Liao. 2024. Checklist and DNA barcoding of the Scorpaenidae (Teleostei: Scorpaeniformes) in Taiwan. *ZooKeys*, 63: 1–18.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 14: 1–73.
- 萩原清司. 2022. 横須賀市自然・人文博物館所蔵魚類資料目録 (V) 横須賀市自然・人文博物及び相模湾海洋生物研究会収集奄美群島産魚類資料目録. 横須賀市博資料集, 46: 1–127, pls. 1–4.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録 (改訂). 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 53: 127–218.
- 本田康介・和田英敏・山田和彦・長谷川大樹・瀬能 宏・本村浩之. 2023. カボチャフサカサゴの分布と成長に伴う形態変化に関する新知見. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 28: 49–57.
- 石田 実. 1997. マダラフサカサゴ, カスリフサカサゴ, p. 198. 岡村 収・尼岡邦夫 (編) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55.
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five Islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 16: 1–116.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. *Kagoshima University Museum, Kagoshima*. v + 120 pp.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 379 pp.
- Matsumoto, T. and H. Motomura. 2023. Taxonomic review of the *Neomerinthe bucephalus* species group (Teleostei: Scorpaenidae), with description of a new species from Vanuatu. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-023-00926-0 (Oct. 2023), 71: 13–39 (Jan. 2024).
- Matsumoto, T. and H. Motomura. 2025a. *Scorpaenopsis gigas*, a new Indo-West Pacific species of scorpionfish (Scorpaenidae). *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-025-01027-w (May 2025), 73: 107–119 (Jan. 2026).
- Matsumoto, T. and H. Motomura. 2025b. Redescription of the poorly known Japanese scorpionfish *Scorpaena brevispina* (Perciformes: Scorpaenidae). *Zootaxa*, 5633: 375–383.
- Matsunuma, M., H. Motomura, H. Wada, M. Aizawa, K. Fujiwara, D. Oyama, K. Sakamoto and R. Ueshima. 2025. List of specimens of the families Neosebastidae and Scorpaenidae (Actinopterygii: Perciformes) deposited in the Department of Zoology, the University Museum, the University of Tokyo. The University Museum, the University of Tokyo Material Reports, 139: 47–64.
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80.
- Motomura, H. 2004a. New species of scorpionfish, *Scorpaena cocosensis* (Scorpaeniformes: Scorpaenidae) from the Cocos Islands, Costa Rica, eastern Pacific Ocean. *Copeia*, 2004: 818–824.
- Motomura, H. 2004b. Revision of the scorpionfish genus *Neosebastes* (Scorpaeniformes: Neosebastidae) with descriptions of five new species. *Indo-Pacific Fishes*, 37: 1–76.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 本村浩之. 2013. フサカサゴ科, pp. 36–66. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 — 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 本村浩之. 2014. ミミトゲオニカサゴ, カスリフサカサゴ, マダラフサカサゴ, pp. 130–133. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- Motomura, H. 2017. Review of the ichthyofauna of Yaku-shima island in the Osumi Islands, southern Japan, with 15 new records of marine fishes, pp. 74–80. In Kawai, K., R. Terada and S. Kuwamura (eds.) *The Osumi Islands: culture, society, industry and nature*. Hokuto Shobou, Kyoto.
- 本村浩之. 2019. フサカサゴ科フサカサゴ亜科, pp. 70–78. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 本村浩之. 2022. フサカサゴ科, pp. 71–81. 岩坪洸樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tanega-shima and Mage-shima Islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250.
- 本村浩之. 2026. 日本産魚類目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 42. [URL](https://www.nippon-suisan.org/) (27 Aug. 2026)
- Motomura H., M. Aizawa and H. Endo. 2014. *Sebastapistes perplexa*, a new species of scorpionfish (Teleostei: Scorpaenidae) from Japan. *Species Diversity*, 19: 133–139.
- Motomura, H., R. Causse, P. Béarez and S. S. Mishra. 2015. Redescription of the Indo-West Pacific scorpionfish (Scorpaenidae), *Neomerinthe eros-tris* (Alcock 1896), a senior synonym of *Scorpaena gibbifrons* Fowler 1938, *N. rotunda* Chen 1981, and *N. bathyperimensis* Zajonz & Klauswitz 2002. *Zootaxa*, 4021: 529–540.
- Motomura, H., R. Causse and C. D. Struthers. 2012. *Phenacoscorpius longilineatus*, a new species of deepwater scorpionfish from the southwestern Pacific Ocean and the first records of *Phenacoscorpius adenensis* from the Pacific Ocean (Teleostei: Scorpaenidae). *Species Diversity*, 17: 151–160.
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima Island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183.
- Motomura, H. and J. W. Johnson. 2006. Validity of the poorly known scorpionfish, *Rhinopias eschmeyerii*, with redescrptions of *R. frondosa* and *R. aphanes* (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). *Copeia*, 2006: 500–515.
- Motomura, H., P. R. Last and M. F. Gommon. 2006. A new species of the scorpionfish genus *Maxillicosta* from the southeast coast of Australia, with a redescription of *M. whitleyi* (Scorpaeniformes: Neosebastidae). *Copeia*, 2006: 445–459.
- Motomura, H., P. R. Last and G. K. Yearsley. 2005. *Scorpaena bulacephala*, a new species of scorpionfish (Scorpaeniformes: Scorpaenidae) from the northern Tasman Sea. *Zootaxa*, 1043: 17–32.

- 本村浩之・宮原雄介・加藤昌一. 2019. 沖縄島で撮影されたマルスベカサゴ (フサカサゴ科: オニカサゴ属) の稚魚. *Nature of Kagoshima*, 46: 167–169.
- Motomura, H. and H. Senou. 2008. A new species of the scorpionfish genus *Scorpaena* (Scorpaenidae) from Izu Peninsula, Pacific coast of Japan. *Journal of Fish biology*, 72: 1761–1772.
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1–125.
- 本村浩之・吉野哲夫・高村直人. 2004. 日本産フサカサゴ科オニカサゴ属魚類 (Scorpaenidae: *Scorpaenopsis*) の分類学的検討. *魚類学雑誌*, 51: 89–115.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. フサカサゴ科, pp. 683–705, 1939–1946. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361.
- 中村亮太・渡辺隆太・大井真人・本村浩之. 2024. 宮崎県南部から得られた九州沿岸初記録を含む南方系魚類7種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 49: 61–67.
- 大西 遼・佐久間夢実・田邊恵一・揖 善継・平嶋健太郎. 2026. 標本に基づく和歌山県初記録の魚類16種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 70: 29–41.
- Poss, S. G. and H. Motomura. 2022. Scorpaenidae, scorpionfishes and lionfishes, pp. 506–549. In: Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) *Coastal fishes of the western Indian Ocean*. Vol. 2. South African Institute for Aquatic Biodiversity, Makhanda.
- Randall, J. E. and W. N. Eschmeyer. 2002 (dated as 2001). Revision of the Indo-Pacific scorpionfish genus *Scorpaenopsis*, with descriptions of eight new species. *Indo-Pacific Fishes*, 34: 1–79.
- 佐々木哲朗・瀬能 宏・山田鉄也・内野啓道. 2014. 小笠原諸島兄弟島および父島の海産魚類相. *小笠原研究*, 41: 13–39.
- Senou, H., Y. Kobayashi and N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 36: 47–74.
- Senou, H., H. Kodato, T. Nomura and K. Yunokawa. 2006a. Coastal fishes of Ie-jima island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 35: 67–92.
- Senou H., K. Matsuura and G. Shinohara. 2006b. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments of shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum, Tokyo*, 41: 389–542.
- Schneider, C. A., W. S. Rasband and K.W. Eliceiri. 2012. NIH Image to ImageJ: 25 years of image analysis. *Nature Methods*, 9: 671–675.
- 島田和彦. 1996. 水中ビデオによる屋嘉比島周辺海域の魚類相調査. *みどりいし*, 7: 12–16.
- 田中翔大・下光利明・瀬能 宏・宮崎祐介. 2020. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相: 144種の追加記録. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, 49: 107–118.
- 津野義大・幸 大二郎・本村浩之・遠藤広光. 2022. 標本に基づく高知県初記録のフサカサゴ科魚類5種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 17: 79–87.
- 渡井幹雄・宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能 宏. 2009. 慶良間諸島渡嘉敷島久湾の魚類相. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, 38: 119–132.
- Wibowo, K. and H. Motomura. 2021. Review of Indo-Pacific species of the scorpionfish genus *Scorpaena* (Teleostei: Scorpaenidae), with descriptions of two new species from the west coast of Australia. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-021-00827-0 (Aug. 2021), 69: 199–235 (Apr. 2022).
- 吉郷英範. 2004. 南大東島で採集されたタイドプールと浅い潮下帯の魚類. *比和科学博物館研究報告*, 43: 1–51, 10 pls.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2002. 比和町立比和自然科学博物館魚類収蔵標本目録 II. *比和町立自然科学博物館標本資料報告*, 3: 85–136, 1 pl.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2003. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (III). *比和町立自然科学博物館標本資料報告*, 4: 31–75, 1 pl.
- 吉野雄輔・瀬能 宏. 2008. 山溪ハンディ図鑑 13 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京. 543 pp.